

## 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 6月分 各業界からのコメント

### ◎建設業

- ・コロナへの警戒感も薄れてきたことで売上は増えてきている。ただ、ウッドショック以降、高止まりが続いている木材料をはじめ、ガソリン、燃料の高騰や原材料高騰が原因で仕入れ先やメーカー各社が軒並み値上げを通告してきている。原価が上昇することから粗利減が予想される。
- ・資材高騰の価格転嫁対策では顧客と丁寧に話を進めているが、今後の見通しが立ちにくい。
- ・世界的な物不足が今後深刻になり、顧客の要求に対する機械納入及び部品不足で修理に困難をきたす状況が心配である。現に徐々に発生しており、今後の当社の商状の悪化も予想される。そのような状況下で十分な対応ができず、今まで築き上げた顧客との信頼が損なわれるという事態が心配である。そのような事態を回避するため、最低限の修理部品を確保（入手不可能部品に対しては中古再生品）し、商状の回復状況を観察していく。

### ◎製造業

- ・5月より10～15%商品値上げを行った。中堅老舗が破綻した。
- ・価格転嫁できないため厳しい。
- ・材料（ステンレス材）の高騰はまだ続くようだ。価格転嫁できていない状況で、今後も不安が多い。仕事量は多いが、見通しは不透明な状況である。
- ・原材料の値上げ要請が後を絶たない。電気やガスなどの燃料費や、包材や主原料の大幅な値上げで厳しい。商品への価格転嫁を試みるが、完了するまでもう少し時間がかかりそう。
- ・ギリギリの人数でやっているが、新型コロナウイルス感染症関連の休業者の増加と有給休暇取得率の向上もあって、人手が足りない状態に陥る。経済を回すのに人流の移動が活発化すればするほど、感染リスクが増えるので心配な面もある。
- ・電気部品や機械製品の長納期化や協力会社繁忙（人手不足等）により、現時点ですでに来年度に先送りになる案件もある。

### ◎卸売業

- ・まだまだ先行きは不透明。
- ・コロナが終息しつつある中、景気の回復は地方には未だ及んできていない。
- ・ウクライナ情勢に鑑みても原料の油の価格が更に進み、メーカーによる再度の値上げがあると考えられる。
- ・青果物の出荷状況は順調だが、食料品等の値上げにより、消費者の買い控えが懸念される。
- ・経済活動は徐々に回復に向かっていくと考えているが、光熱費、ガソリン等の経費と仕入価格の値上げが目立ってきており、懸念している。
- ・原油価格をはじめ、様々な商品、製品の価格が上がっている。政府の積極的な経済政策が必要かと思うが、先の補正予算額では低すぎる。
- ・新型コロナによる休校や食料品の価格上昇の影響がある。
- ・公共資材販売につき、連休明け後引き合い増。

## ◎小売業

- ・前年度に比べ、売上は20%増加したが、2019年度に比べれば20%の減少である。
- ・コロナの感染者がこのまま減少していけば、3年前の水準に近づいていくと思うが、ロシアとウクライナの戦争如何では物価上昇が続き、景況が悪化する可能性があると思う。そうならないことを祈る。

## ◎サービス業

- ・建築設計業界は半導体不足や原材料の高騰などで大変であったが、少しずつ安定を見せ始めている。今後はインフレ等に気を付けなければと思う。
- ・コロナが落ち着いてきた感じがする。リアルでの会議やイベントも増えるなど、人と会う機会が増えてきているため、経済が回っていくことに期待したい。
- ・好材料としては、コロナの影響で中止されていたイベントが開催される見込みとなったことが幸いている。政府の景気浮揚対策によって企業の設備投資が増えることを期待したい。
- ・コロナ感染者が身近には出ているものの、減少傾向にある。週末には結構な人が流れ、少しずつではあるが回復傾向になってきている。サービス業としては嬉しく感じる。私ども、介護福祉施設でも、少しずつではあるが、見学者も増えてきている。マスク、消毒などの感染対策をしっかりとしていけば良いのかなと感じる。
- ・県またぎの仕事が増加しており、見通しは良い。
- ・5月は人流が増え、「地域のお店応援商品券」の経済効果もあり好調だった。業績が上がると人手が必要になり、働き方改革で労働時間・日数も減らしているため、人手不足が慢性化してきている。
- ・中国のゼロコロナ政策によるロックダウン解除や、訪日観光客の受け入れ再開など、経済は徐々に回復していくものと期待するが、原油価格の高止まりで先行きが見えず心配である。
- ・コロナの影響が少しずつ減少し、人流の増大が見えてきた。予約や問い合わせも増えてきており、コロナ前の忙しさに近づいていると考えられる。しかしながら、ロシア・ウクライナの戦争による世界的な経済への影響が各種原料の価格を押し上げ、期待感とは反面、節約意識も向上している。早く戦争が終息することを人道的・経済的に強く願うばかり。
- ・企業の経済活動は再開し始めているが、物価上昇等による個人消費抑制の動きにより社会的な景気の停滞が懸念される。
- ・コロナ禍に加え、ウクライナ情勢により原油高騰となり原材料価格の上昇が続いている。とはいえ、すぐに販売価格に反映することも容易でなく難しい状況にある。
- ・半導体の供給不足の影響が続いており商品仕入価格が上昇し、採算が悪化の傾向である。また原油価格高騰による影響も響いている。
- ・ウクライナとロシアの戦争により原材料高騰、資材不足など、影響が大きい。仕事の段取りが付きにくく、早く安定してほしいと思うばかり。
- ・ライブイベントなどの人出は出てきており、若い人は活動し始めていると思う反面、夜の人出は早い帰宅が定着したのか11時以降はまだまだで、回復は先と感じさせる。
- ・金融機関からコロナ融資の返済が始まる前に今から準備をとアナウンスをいただいた。政府も出口を緩やかにする政策を出してきており、ある程度の安心感はあるものの、条件によってはうまく当てはまらないケースもあり、自分で自分を守る姿勢が必要だと感じる。
- ・出口戦略のひとつ、事業転換に補助金などが手厚く出ているが、従業員教育に使える補助金がもう少し出て欲しい。どうしても画一的なルールで使おうと思うと、制約が多く、申請も大変なものが多い。

- ・ 資材不足が不動産業参入への機会を奪っている。相続税の改定もありそうで、資金の行き場がなくなっている。